



富山県

No.64 2012年7月

中央植物園だより



ハス

暑い夏に凜とした花を咲かせるハスにはすがすがしさを感じます。和名は、花弁が散った後にできる果実の姿がハチの巣に似ることから「はちす」と呼ばれたことからきたと言われていています。

「観音寺の蓮」 撮影/澤崎すみ枝さん (第13回私の植物写真展応募作品)

夜間開園 オオオニバス観賞会



夏の夜に果物のような甘い香りを放つパラグアイオオオニバスは、この香りでコガネムシなどの昆虫を集めると言われています。またその花は、初めて花が咲く1夜目には純白であるものの、翌朝には花を閉じ、再び花が開く2夜目にはピンク色へと色が変わります。南米原産のこの不思議な植物の花をぜひご観賞ください。開催日や開催時間は裏面の催事予定をご覧ください。

BOTANIC GARDENS OF TOYAMA

就任ごあいさつ



富山県中央植物園

園長 須沼 英俊

本年4月、富山県中央植物園長に就任しました須沼英俊です。

この植物園の建設にあたっては、初代担当として、平成元年からの3年間、植物園全体の基本設計から造成までを取り組まさせていただきました。

今回、植物園長として心新たに、①植物の収集と展示、②植物に関する教育と普及、③植物に関する調査・研究、を基本方針とした全国的にも数少ない総合植物園として、皆さんに親しまれ、植物と憩い楽しむことのできる植物園として一層の充実を目指して、スタッフとともに、これまで以上に努力したいと考えております。

また、中央植物園は、日本植物園協会の絶滅

危惧種保全拠点園、県内においては植物関連施設ネットワークの中核園としての役割を果たしておりますが、さらに植物に関する情報センターとしての機能を充実し、植物を通じた生物多様性の保全など環境保全活動の展開、調査研究などにも積極的に取り組み、その成果を目に見える形で県民に提供することにも努力したいと考えております。

今後とも、植物園友の会や植物園ボランティアなどの中央植物園を支えて下さる皆さまのお力添えもいただきながら、職員一同、力を合わせ県民の皆様をはじめ多くの方々へ愛され親しまれる植物園となるよう努力したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

中央植物園のこんなところ紹介

中央植物園は敷地面積が24.7ha（甲子園6個分、東京ドーム5個分）もあって非常に広大なため、園内を1周約30分でまわる電気自動車が運行しています。電気自動車は園内をゆっくり走り、また静かであるため、乗りながら園内の植物を眺めることができます。また運転手からは、現在見頃になった花や園内植物の話題を聞くこともできます。

電気自動車は、4月～5月の毎日と6月～10月の土・日・祝日に運行しており、その時間は午前9時から12時までと、午後1時から4時までです。また6月～10月の平日や11月・3月は随時運行しています。いつも走っているのは1台ですが、時によって複数台が走ることもあります。

電気自動車乗車希望の方は、入園口横のバス停でお待ちください。料金は小学生以上1人1回100円、これで広い園内をぐるっと1周できる

園内バス(電気自動車)

だけでなく、お客様は気にいった場所があれば園内のどこでも下りることもできます。



植物の説明を聞きながら園内を巡ることのできる

園内バス（電気自動車）

植物園トピックス

海外植物園長 2名の来県

イギリスのホーウィック樹木園園長のホーウィック卿とアメリカのクオリーヒル植物園のウィリアム・マクナマラ園長が日本のサクラの野生種の種子を収集するために6月12日から14日まで来県しました。大原主任と神戸副主幹研究員が同行し、富山県に自生するサクラの種子収集をしました。中央植物園ではサクラの収集・展示に力を入れており、収集した種子から苗木を育成した富山県産のサクラも保存・展示していく予定です。



宇奈月にて（左からマクナマラ園長、神戸副主幹研究員、大原主任、ホーウィック卿）

研究紹介◎『菊咲き性のサクラの新品種「ニューゼンオトメキクザクラ」』 主任 大原 隆明

入善町吉原の海岸に隣接した場所には湧水がみられるスギ林があり、国指定天然記念物「杉沢の沢スギ」として知られています。2011年春に、県ナチュラリストとして活躍されている同町在住の本瀬春雄・薫ご夫妻から、この林内に美しくも奇妙なサクラがあるとの情報をいただきました。お持ちいただいた写真を拝見したところ、このサクラは1つの花の花弁数が100枚に及ぶ「菊咲き性」という特殊な咲き方のものでした。

そこで、本瀬さんご夫妻と富山大学理学部の学生であった今西保奈美さんと共同で2年間に渡って花や葉の形質の調査を行いました。その結果、このサクラは花弁やがく片が非常に細長く（図1）、苞の先端に明らかな鋸歯があり、小花柄や葉には毛が多いなどの特徴があることが判明しました。これらの特徴をすべて併せ持つ菊咲き性の品種はこれまで知られていないことから、2011年12月に東京都の玉川大学で開催された日本桜学会研究発表会で、これまでに報告されているどの品種とも異なる特徴をもつ新品種として発表を行いました。

今回の発見の最大の意義は、このような菊咲き性品種が自生状態で発見されたことにあります。このサクラは図2のようにスギの枯木の上に乗るような

状態で生育していることから人間が植えたものとは考えられないもので自生品と考えられます。これまでに報告された菊咲き性品種はいずれも栽培状態で発見されたもので、フジキクザクラという1品種だけが唯一自生状態で見つかったものでした。つまり、今回のサクラは自生状態で発見された菊咲き性品種としては2例目にあたる貴重なものといえます。このサクラは分類学的にはこの林内に見られるカシミザクラとオクチョウジザクラという2つの野生種の交雑品と考えられるものであり、この沢スギ林内で自然に誕生したものである可能性が高いと考えられます。

さらに、このサクラは一つの花の開花期間がとても長く、半月近く咲き続けるという園芸的に優れた特徴があることも分かりました。また、花色は満開時にはほぼ白色ですが、その後次第に紅色みを帯び、最後には全体が少女を思わせる優しいピンク色に変化します。このような特徴から、このサクラは「ニューゼンオトメキクザクラ」と名づけられ、今春マスコミで話題となり、多くの方が見学に訪れました。今後はこのサクラを園芸的に利用できるようにするため、入善高校等と協力して増殖に関する研究を行う予定です。



図1 ニューゼンオトメキクザクラの開花時の枝



図2 ニューゼンオトメキクザクラの株元部分。枯れたスギの上に乗っている。

植物園の植物紹介5

屋外展示園の植物



ポンテデリア・コルダータ

北アメリカ東部からカリブ海周辺に分布するミズアオイ科の多年草で、沼や湖のほとりの浅い水中に生えます。英名をピクラル・ウィード(ピクラル草)といい、ピクラルはこの植物の自生地に棲む淡水魚(小型のカワカマス類)のことです。

夏の間、さかんに花茎を伸ばし、先端に涼しげな青紫色の花穂をつけます。花にはめしべの長さが異なる3つの型があり、株によってどの型の花をつけるかが決まっています。ふつう別な型の花の間で受粉が起こりますが、自家受粉で種子ができることもあるようです。

近年、ピオトープ用の水草として販売されているのを見かけます。同じミズアオイ科のホテイアオイのように、野生化してひどく増殖している例はないようですが、耐寒性があることと、種子がよくできる株も存在することから、自然の川や沼には植えないほうが無難でしょう。

見られる場所：北米東部の植物エリア(世界の植物ゾーン)

展示園課 高橋一臣

催し物のご案内

■企画展・特別展 サンライトホール
企画展・特別展には入園料が必要です。

企画展

「私の植物写真展」

6月15日(金)～7月18日(水)

夏休み子ども企画

「食虫植物展」

7月20日(金)～8月1日(水)

夏休み子ども企画

「森のクラフト」

7月20日(金)～8月29日(水)

特別展

「富山県の絶滅危惧植物」

8月31日(金)～11月21日(水)

■講座・講習会

夏休み子ども企画

オオオニバスに乗ってみよう

8月17日(金)・18日(土)

・19日(日)

整理券配布 午前分：9:00～
午後分：13:00～

9:00～・13:00～

定員／3日間とも午前・午後 各100名

第20回 TOYAMA 植物フォーラム★

「富山県の絶滅危惧植物(仮)」

9月23日(日) 13:00～16:00

定員／70名、参加費／無料

植物画講習会 II ◆要申込★

9月29日(土)・30日(日)

2日間連続 10:00～16:00

※経験者対象の2日連続の講習会。

■特別開園

オオオニバス観賞会

8月24日(金)・25日(土)

19:00～21:30(入園は21:00まで)

入園料／250円

■月例行事

緑のコンサート

第1土曜日 11:00～12:30

集合場所／サンライトホール

参加費／入園料が必要

植物ガイド ー職員と歩く植物園ー

毎週日曜日 13:30～14:00

集合場所／サンライトホール

参加費／入園料が必要

◎要申込 事前の申込が必要です。前日までに「電話」でお申込みください。

◆要申込 事前の申込が必要です。申込は1ヶ月前から往復はがき・FAX・メール(botanic@bgtym.org)で受け付けます。

★印は植物園ボランティアの養成講座です

富山県中央植物園 入園案内

開園時間 9:00～17:00(入園は16:30まで)
(11月～1月は9:00～16:30、入園は16:00まで)
休園日 毎週木曜日(4月と祝日の場合は開園)、
年末年始(12月28日～1月4日)

入園料 大人(一般および大学生) 500円
団体料金(20名以上) 400円
高校生以下無料
冬季入園料(12月～2月)
大人(一般および大学生) 400円
団体料金(20名以上) 340円
高校生以下無料
年間パスポート2,000円(購入日から1年間有効)

交通案内 JR富山駅から、富山地鉄バス「ファボーレ」経由菟の島循環]または「ファボーレ」経由速星行き(休日のみ)]に乗りし「中央植物園口」停留所下車、徒歩約12分／富山市中心部より車で約15分／北陸自動車道富山インターより車で約15分／JR速星駅より車で約8分

富山県中央植物園だより No.64

編集・発行／公益財団法人 花と緑の銀行
〒939-2713 富山市婦中町上轡田42 TEL 076-466-4187 <http://www.bgtym.org>
平成24年6月20日発行 印刷／北日本印刷株式会社